鳥類　＜チドリ目　シギ科＞　　愛知県：絶滅危惧Ⅱ類（越冬）　（国：リスト外）
AVES　＜CHARADRIIFORMES　SCOLOPACIDAE＞　　AICHI：VU（Win）　（JAPAN：－）

ダイシャクシギ　*Numenius arquata* (Linnaeus)

【選定理由】

広い干潟に依存する大型シギであるが、県内の生息数は少ない。愛知県鳥類生息調査によると 1993 年までは庄内川河口で 10 羽以上の越冬記録があるが、2010 年以降はその数が半減している。汐川河口では 2005 年 10 月に最大 8 羽の記録があるが、以降は毎年 1～数羽が越冬しているに過ぎない。

【形　態】

全長 50～60cm、翼開長 80～100cm。上面は淡褐色で、頭頂から背、肩羽、雨覆に暗褐色の斑があり、雨覆の羽縁に淡黄褐色の小斑がならぶ。顔、頸、胸は淡褐色の地に暗褐色の縦斑があり、腹と下尾筒は白色。腰は白色で背までくいこみ、上尾筒と尾は淡褐色で黒褐色の斑がある。嘴はとても長く、大きく下に湾曲する。雄雌同色だが、雌の方が雄よりも大きい。

愛知県西尾市, 2018 年 1 月 11 日, 高橋伸夫 撮影

【分布の概要】

【県内の分布】

県内には、春と秋の渡りの季節や冬期に伊勢・三河湾沿岸の広い干潟に飛来して生息する。

【国内の分布】

北海道から沖縄にかけて春と秋の渡り時期に飛来し、多くが越冬する。

【世界の分布】

ユーラシア大陸の中北部で繁殖し、アフリカ、インド、東南アジアなどで越冬する。2 亜種に分けられる。

【生息地の環境／生態的特性】

広い干潟に生息し、秋は 7 月の下旬頃から飛来して 10～11 月頃に最大数になるが、その後若干数を減らして越冬する。春は徐々に数を減らし、通常 5 月には全て渡去する。秋も春も渡りの季節に通過している個体も少なくないと思われるが、通常はいつも単独から数羽で見られることが多い。県内では特にカニ類を好んで捕食しているが、カニ類以外ではゴカイなども食べる。

【現在の生息状況／減少の要因】

県内の主な生息地は、藤前・庄内川干潟、境川河口、矢作川河口、一色干潟、汐川干潟、伊川津干潟、三河湾の島嶼などに限られている。現在県内で最も生息数が多いのは藤前・庄内川干潟であるが生息数は 2～5 羽程度であり、他の地域では、多くてもそれぞれ 1～数羽が飛来しているに過ぎない。減少の要因として、干潟に生息するカニやゴカイの量が少なくなったことが考えられる。干潟を歩きまわっても獲物の姿を見られる機会が減っていることが推測され、河口や干潟の水に濁りがなくなり、綺麗になったことは良いことと思われるが、透明になった要因が河川や下水処理場から海に供給されるべき栄養塩類等の減少であるとすれば本末転倒である。

【保全上の留意点】

現存する干潟を保全するとともに、満潮時に生息できる後背地の整備を行い、干潟に生息する生物の生態系を回復することが重要である。河川から供給される栄養塩類の減少が指摘されており、試験的に終末処理場の管理運転が実施され始めたが、さらに研究が進められることで、豊かな海や干潟が復活することが望まれる。

【特記事項】

カニが好物で、捕食するときは干潟の穴に長く湾曲した嘴を差し込んで、中のカニを捕らえる。

【関連文献】

真野　徹, 1984. 黒田長久編, 決定版 生物大図鑑 鳥類, pp.134-135. 世界文化社, 東京.

（高橋伸夫）